

日本事情入門B		講師 原田 桂	
科目カテゴリー	国際ビジネス学科の教養選択科目	科目ナンバリング	22200136

1. 授業のねらい・概要

「日本事情入門A」に引き続き、日本での留学生生活をスムーズに送れるように、身近な習慣やルールや文化の理解を深めることを目的とする。日本固有の伝統文化だけではなく、特に日本のアニメ・漫画文化はクールジャパンを代表するコンテンツとなり、他国への影響力も大きい文化産業として確立されつつある。実際に様々な作品を鑑賞してその魅力を表現できるよう学ぶ。さらに日本が抱える問題を例に挙げて自国の事情と比較しながら、それを他者へ伝えられる日本語文章能力も身に付ける。

2. 授業の進め方

写真や映像など様々な媒体を使って日本の習慣や文化を紹介しつつ、実際に学内や学外において体験しながら理解を深める。毎時配布するプリントをノートに貼り、メモや書き込みを加えながら、一冊のオリジナルノートを作成する。そのノートは提出してもらい理解度を確認する。また、学生の興味関心のあるテーマや理解度に応じて、適宜内容を変えながら進めていく。

3. 授業計画

1. オリエンテーション (授業の概要, 進め方などの説明)	9. 日本のアニメーション②
2. 若者ことば・方言	10. 日本の文学①
3. 日本の歴史	11. 日本の文学②
4. 伝統芸能 (能, 歌舞伎, 狂言, 文楽, 落語など)	12. 日本人の特色と変化
5. 伝統芸道 (茶道, 華道, 武道, 書道など)	13. 現代日本が抱える問題①
6. 日本の映画	14. 現代日本が抱える問題②
7. 日本の漫画	15. まとめ
8. 日本のアニメーション①	

4. 準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間

ノート提出をしてもらうので、配布したプリントや返却した提出物など整理をしながら予習や復習するのに30分以上は必要である。

5. 課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法

添削、講評した課題や提出物などはその都度返却し解説する。また、復習と定着に役立つよう無記名にして様々な解答パターンを紹介する。

6. 授業における学修の到達目標

- ・日本語で「話す」「読む」「書く」ことに慣れる。
- ・日本の文化や習慣への理解を深める。
- ・日本の文化と自国の文化を比較し、それを日本語で伝える能力を養う。
- ・現代日本が抱える問題を色々な角度から分析し日本語で考える力を養う。

7. 成績評価の方法・基準

課題レポート (50%), 提出物 (30%), 授業での発言及び取り組み姿勢等 (20%)

8. テキスト・参考文献

毎時プリントを配布する。参考文献は適宜紹介する。

9. 受講上の留意事項

- 辞書または電子辞書を持参すること。
- 配布するプリント利用してノートを作成するので、必ず毎時間ノートは持参すること。